



Over the Rainbow
Story #002

サンガテクノロジー合同会社 代表

網野 忠

自分を変え、 時代を変える一員に なる

技術者が誇りを持って
仕事に打ち込める世の中になりたい

あみの ただし

1962年生まれ。大阪大学理学部物理学科卒業後、三洋電機、日本サムスンならびにサムスン電子にて、デジタル映像信号処理、映像圧縮伸長技術、液晶デバイス駆動技術、デジタルIC設計技術を手がける。前職にて50件の特許を取得。2015年にサンガテクノロジーを創業、得意分野の映像処理開発をベースに、廉価で高品質な半導体技術の開発と普及に務める。

「第三の河」

網野忠さんは電子回路の設計開発を通じて、半導体に「命」を吹き込む仕事をしている。2015年6月にはサンガテクノロジー合同会社を設立、電子回路の設計開発を中心とする事業をスタートさせた。

社名は、「第三の河」に由来する。これまでに勤めた「三洋電機」「サムスン（三星）電子」の、「三」を冠した二社を経て「第三の河を拓く」という意味だ。河は海へと続き、世界の大陸をつなぐ源流となる存在。そんな企業にしたいとの願いを込めた。

大学卒業後、半導体回路の設計開発者として三洋電機に入社した。しかし、90年代から時代の波に呑まれた三洋電機は経営危機に陥り、消滅してしまった。

2005年にサムスン電子の日本法人に転職、やがて当時の上司とともに韓国のサムスン電子に移った。そこで待ち受けていたものは「文化の壁」。現地スタッフに日本流の品質管理手法を伝えても「責任を明確にされると困る」と言われ、根づかない。開発のアイデアを提案してもお茶を濁され、自分の出したアイデアは現地の技術者に開発を割り当てられた。さらに、連日繰り広げられる反日報道に言葉を失った。ここには居場所を見出せない。2014年、サムスン電子を離れて帰国し、自分の会社を興した。

の可能性を否定しないでいたいと思います」

時代を変える側の 一員でありたい

定年まで勤めあげるのが常識だった時代に、勤める会社が消滅する辛い体験をした。「これから世の中は激しく変わっていくだろうけど、それに翻弄されたり乗り切ったりで終始したくない。『これをやるんだ』と掲げ、自分が変わりながら世の中に貢献して、世の中全体を変えていく。そんな、時代の流れを創る一員でありたいです」。

網野さんの描く時代の流れとは、どんな姿なのだろうか。今はまだ、その『芯』は掴めていないという。それでも、「世の中がこうあつたら」と思えることを訊ねてみた。

「一つは、「豊かな暮らし」の先を見つめることです。帰国して間もない頃、近所にある、古く小さな定食屋に行きました。そこで、お客さんがご飯粒ひとつ残さずに食べて『ごちそうさま』の気持ちを込めてお膳を返すのを見て、『そつや、昔はこつやつたやん、俺ら!』と気づいたんです。これまで日本は豊かさを求めて走ってきたけれど、

電子回路開発の プロとして

長年、映像分野における半導体回路の設計開発に携わってきた。他社に先駆けた店舗向け監視カメラシステムや、BSデジタル放送スタート時の対応など、社会インフラの整備を担う案件だ。これまでに研究開発を通じて取得した特許の数は、50件にのぼる。

三洋電機、サムスン電子での一流のエンジニア達との出会いが、網野さんに影響を与えた。とりわけ三洋電機時代に先輩が教えてくれた「本質を見ること」を、今も肝に銘じている。「僕は、端正なものを提供したい。必要な全ての機能を小さな回路にピシッと収めるために、一つひとつの要素を考え抜いた上で仕様書を書いて、実際の開発に着手します」。

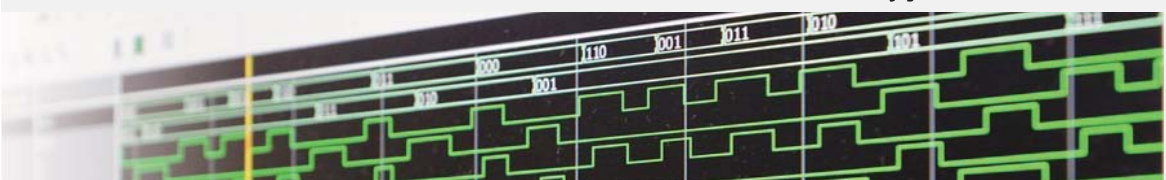
もう一つ、大切にしているのは「解決策をあきらめない」姿勢。「もともとないものを

創るなら手法にとらわれず、どうしたら実現できるかを考えてみる。無意識に排除していたアプロ



「仕様書を書いて、必要ならブロックダイアグラムを描いて、インターフェースをきっちり決めながらものを作っていくのは、三洋電機時代に培ったクセ、しつけです。」

を向け、そ



サンガテクノロジー合同会社
(SANGA Technology LLC)

設立 2015年6月12日

代表 網野 忠

所在地 神戸市東灘区御影本町1-3-6

主な事業内容

ディスプレイ装置の電子回路ならびにソフトウェアの設計開発、販売／非同期式回路の設計開発、販売／電子回路一般ならびにソフトウェア一般の設計開発と販売／電子回路の設計開発におけるコンサルティング 等